

日米スポーツ交流事業の開催



日米スポーツ交流事業の様子 (2月11日、於：キャンプ・ハンセン)

目次

CONTENTS

平成27年度日米スポーツ交流事業の開催 2

幹部職員の紹介 2

キャンプ・ハンセンの一部土地の返還
(宜野座バイパス用地) について 3

第24・25回防衛セミナー開催 3

米軍再編に係る航空機の訓練移転 4

県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施への
取り組み状況 4

北谷町町民農園開園式 5

防衛施設周辺対策事業 5

第11回在沖縄日米危機管理会議 6

北朝鮮ミサイル発射に係る自衛隊の対応 6

航空自衛隊那覇基地 第9航空団新編 7

沖縄の子どもたちに「雪」のプレゼント 7

米国太平洋空軍音楽隊が県内各地で演奏 8

退職者の紹介 8

平成27年度日米スポーツ交流事業の開催

2月11日、沖縄防衛局は、米海兵隊キャンプ・ハンセン内体育館において、日米スポーツ交流事業を開催しました。この事業は、米軍基地の周辺住民の方々と在沖米軍人・軍属及びその家族との相互理解を図ることを目的に、平成20年度から開催しているものです。

今回は、キャンプ・ハンセン所属の軍人・軍属及びその家族と同施設が所在する宜野座村の住民の方々の合計約200名が、日米混成8チームを構成し、玉入れ、五色綱引き、二人三脚リレーなど様々なゲームを行い、交流を深めました。

お昼時には、基地内のハンバーガーが出されるとともに、地元の子どもたちの空手演武や三線演奏が披露され、最後に参加者全員のカチャーシーで交流事業を締めくくりました。

参加された方々にアンケート調査をお願いしたところ、今回の事業について、「楽しかった」「どちらかと言えば楽しかった」と回答した人が98.5%を占めました。

また、「異文化交流がもてて良かった。米側の子どもたちの元気良さに驚いた。」「日米の同年代の子ども同士交流できて楽しそう良かった。親も楽しめた。英語を話せるようになりたいと思うきっかけになったと思う。」などの感想をいただきました。

なお、本事業の開催にあたり、宜野座村をはじめ、惣慶区、宜野座区、漢那区、松田区、城原区、福山区の各区長、米国海兵隊キャンプ・ハンセン司令官、在日米軍沖縄地域調整官など、多くの方々の御支援、御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。



参加者全員でカチャーシー

幹部職員の紹介

平成28年1月29日付けで、遠藤次長が着任しましたので、ご挨拶いたします。



えんどう きみひこ
次長 遠藤 仁彦

1月29日付けで沖縄防衛局次長を拝命致しました遠藤です。国土交通省から出向し、初めての防衛省勤務になります。沖縄勤務も初めてです。生まれは北海道。関東よりも西に住むのも初めてであります。「はいさい」の読者の皆様にとっては全くの初顔だと思っておりますので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

国土交通省では港湾を専門とする土木技官として28年ほど勤務してきました。この間、ほとんどは港湾関係の部署で本省と地方局勤務の繰り返しです。若干変わった経験としては農林水産省(水産庁)に出向した際に遊漁船業(釣り船を営業している業態)を担当したことです。

初めてづくしの中、縁があって沖縄防衛局勤務をさせていただくことになりましたので、沖縄の人、風土、文化を愛しつつ、沖縄防衛局が果たすべき役割を着実に実行できるように、微力ながら全力で取り組んでまいりたいと思います。何かの機会に見かけることがあれば、気軽にお声掛けください。よろしく願いいたします。

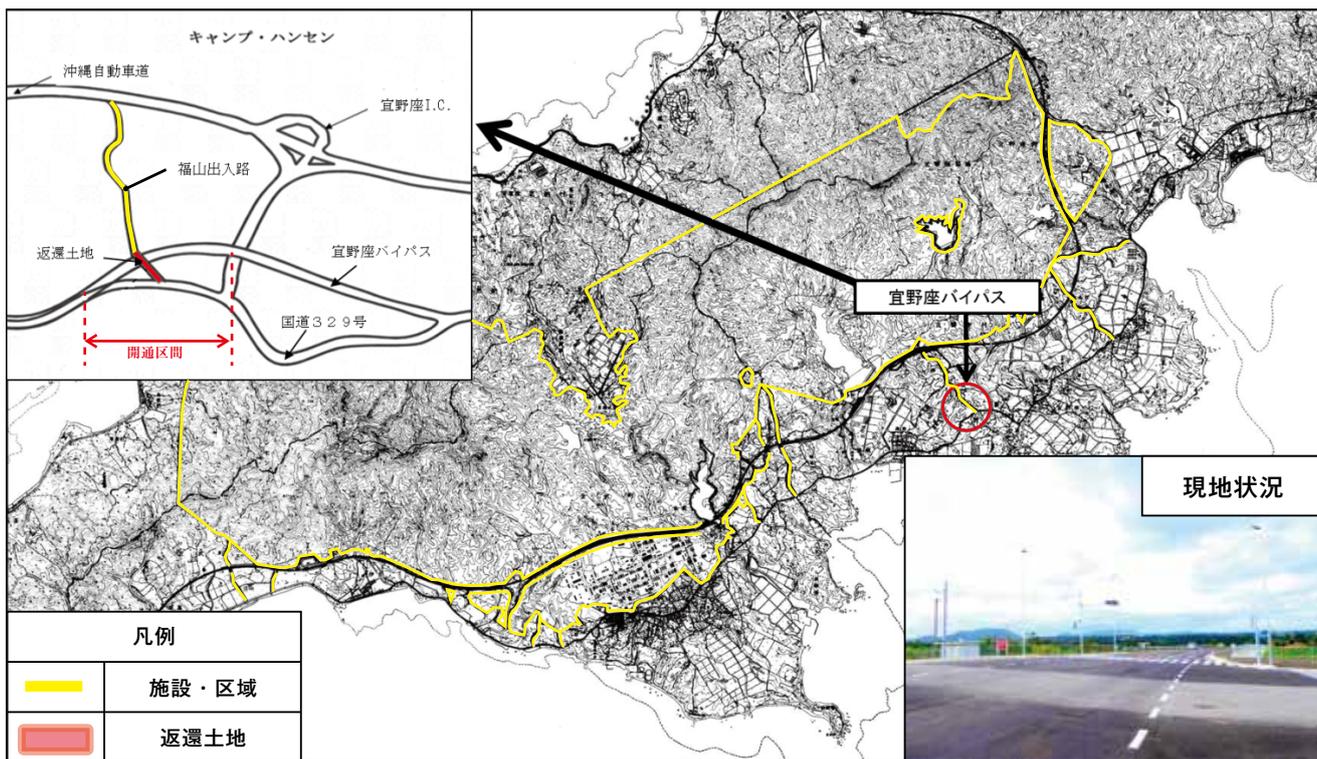
キャンプ・ハンセンの一部土地の返還（宜野座バイパス用地）について

1月4日、キャンプ・ハンセンの一部土地（約2,200㎡）が返還されました。

この返還は、内閣府沖縄総合事務局から、宜野座村内の国道329号の急カーブや急勾配等の線形不良箇所を解消し、交通安全の確保、地域交流の促進、幹線道路としての機能向上を図ることを目的として整備する宜野座バイパス用地の一部として返還の要請があったものです。今回の返還を受け、1月21日に宜野座バイパスの一部供用が開始されました。

今回の供用開始区間周辺は、例年、プロ野球のキャンプ期間中に交通混雑が発生するため、キャンプが始まる前までに当該バイパスの一部供用開始が実現できるよう、米側を含めた関係者との調整を鋭意進めてきたものです。

当局としては、今般の宜野座バイパスの開通が、地域の皆様の生活利便性の向上に繋がることを期待しています。



第24・25回防衛セミナーの開催

2月25日、26日の両日、北大東村人材交流センター及び南大東村立ふるさと文化センターにおいて、『わが国の安全保障と地域支援』をテーマに防衛セミナーを開催しました。

昨年3月に離島（久米島町）でのセミナーが好評であったことから、今回も引き続き離島で開催することとしたものです。

セミナーの第1部では、防衛省大臣官房山本達夫審議官から、「我が国の安全保障環境への対応と沖縄基地負担の軽減に向けて」について、昨今、我が国周辺において、北朝鮮や中国の軍事活動が活発化していることや防衛省が米軍の抑止力を維持しながら如何に沖縄の基地負担を軽減していくかについて説明がありました。

また、第2部では、陸上自衛隊第15旅団第15ヘリコプター隊第2飛行隊小松原謙介隊長から、離島の方々の生活と密接な関わりがある「自衛隊による緊急患者空輸」について、体験談を交えながらお話がありました。

聴講された方々からは、「基地負担の軽減に大変苦労されている」、「緊急空輸の苦労に感謝しています」、「自衛隊の現状が少し見えた感じがした」、「基地問題解決のためセミナーを通して理解を深めることが重要」などの感想や意見をいただきました。

なお、講演内容につきましては、今後、沖縄防衛局ホームページに掲載しますので、御覧下さい。

今回の防衛セミナーが防衛行政に対する国民の皆様の御理解の一助となれば幸いです。



防衛省大臣官房
山本達夫審議官による講演
(於:北大東村)



陸上自衛隊第15旅団
第15ヘリコプター隊第2飛行隊長
小松原謙介2等陸佐による講演
(於:南大東村)

米軍再編に係る航空機の訓練移転について

米軍再編に係る航空機の訓練移転は、嘉手納飛行場周辺の更なる騒音軽減を図るため、平成18年5月の「再編実施のための日米ロードマップ」等に基づき、平成19年から開始した国内の訓練移転に加え、平成23年1月及び10月の日米合同委員会合意に基づき、平成23年10月からグアム等への訓練移転を実施しているところです。

今般、平成27年11月30日~12月20日までの21日間、嘉手納飛行場で実施予定であった岩国飛行場所属の航空機による訓練をグアム等へ移転して実施しました。

また、平成27年12月3日~12月15日までの13日間、嘉手納飛行場から航空自衛隊三沢基地へ、平成27年12月8日~12月11日までの4日間、嘉手納飛行場から航空自衛隊新田原基地へそれぞれ訓練移転を実施しました。

- 岩国飛行場所属 → グアム等 FA-18×8機、EA-6B×5機、人員420名程度
- 嘉手納飛行場所属 → 三沢基地 F-15×12機、早期警戒管制機×1機、人員300名程度
- 嘉手納飛行場所属 → 新田原基地 F-15×4機、人員50名程度

県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施への取り組み状況

キャンプ・ハンセンにおいて実施されていた、いわゆる県道104号線越え実弾射撃訓練については、平成8年12月の日米特別行動委員会(SACO)の最終報告に基づき、沖縄県民の負担軽減のため、これらの訓練を平成9年7月から本土5カ所の陸上自衛隊演習場で分散・実施しており、これまでに65回実施されています。

沖縄防衛局では、在沖米海兵隊がこの訓練を実施するにあたって必要な物資等の円滑な輸送のため、米軍や輸送業者と打合せを重ね、輸送状況を確認するなどの業務を行っています。

平成28年度の訓練計画については、以下のとおり予定しており、各演習場における訓練の具体的な日程等については、今後、日米間において調整を行い決定します。

今後とも、本土5カ所の演習場への訓練の分散・実施を行い、沖縄県民の負担軽減に取り組んでいきたいと思っております。

【平成28年度訓練計画】

- 第1回 王城寺原演習場 平成28年 5月上旬～6月上旬
- 第2回 東富士演習場 平成28年 9月上旬～10月上旬
- 第3回 北富士演習場 平成28年 11月中旬～12月中旬
- 第4回 日出生台演習場 平成29年 2月中旬～3月中旬

※上記期間は、部隊の展開期間である。



本土5カ所の陸上自衛隊演習場で分散・実施

北谷町町民農園開園式について

2月12日、北谷町砂辺において、町民農園の開園式が開催され、野国町長をはじめとする多くの関係者が出席し、開園を祝しました。

沖縄防衛局では、嘉手納飛行場の航空機の離陸、着陸等のひん繁な実施により生ずる騒音が特に著しい区域において、土地を買い入れ、航空機の騒音と住民生活の場との間の緩衝地帯とするとともに、地域住民の生活環境を保全するためいわゆる周辺財産として管理しています。



テープカットの様子

今回開園した町民農園は、北谷町が周辺財産を活用し、町民が野菜や花の栽培を通し、自然と触れ合い、農業に対する理解を深め、地域のコミュニティ活動の育成を図る場として整備されたものです。

このように、当局においては管理している周辺財産について、地域の方々に有効に活用していただくため、自治体等から広場や花壇などとして使用したいとのご要望があれば、積極的に協力できるよう努めております。

伊江村立伊江小学校・伊江幼稚園が完成

2月26日、既設校舎の老朽化が著しいことから建設が進められていた伊江村立伊江小学校の校舎及び伊江幼稚園の園舎が完成し、落成式典及び祝賀会が開催されました。

式典には、島袋村長や伊江小学校・幼稚園の児童をはじめとして、保護者や学校関係者などが出席し、施設の完成を祝いました。

本施設は、沖縄防衛局が、伊江島補助飛行場を離発着する航空機による騒音を防止又は軽減するため、防衛施設周辺防音事業により、改築工事に併せて、空気調和設備（エアコン等）の設置等に要する費用について補助したものです。

本施設の防音工事を実施したことにより、未来を担う子ども達の教育環境が改善され、子ども達が健やかに成長し、世界に羽ばたいていくことを願ってやみません。

当局としては、今後とも防衛施設周辺にお住まいの皆様方の生活環境の改善のための各種施策の実施に取り組んで参ります。



眞鍋総務部長による祝辞



校舎の外観



園舎の外観

第11回在沖縄日米危機管理会議について

1月12日、外務省沖縄事務所において、第11回在沖縄日米危機管理会議が開催されました。会議では、米軍航空機関係事故が発生した際に日米関係機関が緊密な連絡を取り、協力して対応できるようにするため、日米双方の具体的な初動対応要領について意見交換をするなど相互理解を深めました。また、平時からの緊密な相互連絡を推進していくことなどをあらためて確認しました。



在沖縄日米危機管理会議の様子

北朝鮮ミサイル発射に係る自衛隊の対応について

北朝鮮は、2月7日から14日までの間、北朝鮮の発射場から南側方向へ「人工衛星」を発射する旨を発表し、3日、防衛大臣は、「人工衛星」と称する弾道ミサイルの発射に際し、国民の皆様の生命・財産の安全確保に万全を期すため、弾道ミサイル等に対する破壊措置等の命令を発出しました。

この命令を受け、防衛省・自衛隊は、日本海及び東シナ海にイージス艦を展開するとともに、首都圏、沖縄本島（航空自衛隊那覇基地や知念分屯基地に配置）及び先島諸島にPAC-3部隊や被害対処のための部隊を展開し、関係自治体（沖縄県、石垣市、竹富町、多良間村、宮古島市、与那国町）に連絡員を派遣しました。

沖縄防衛局は、4日から9日までの間、航空自衛隊那覇基地内に設置された「統合連絡調整所」に職員を派遣し、自衛隊と緊密な連携を図りつつ、関係自治体等に対する情報提供や連絡調整の面で支援を行いました。

2月7日、北朝鮮は国際社会からの打ち上げ中止の要求にもかかわらず「人工衛星」と称するミサイルの発射を強行し、ミサイルは沖縄県上空を通過しましたが、その際、PAC-3等による破壊措置を実施する事態に至らず、落下物・人身への被害は確認されませんでした。

PAC-3部隊等の展開に当たり、沖縄県を始めとする関係自治体、関係機関の皆様の御理解と御協力を頂き、感謝申し上げます。



宮古島（トゥリバー地区）でのPAC-3配備状況



統合連絡調整所での活動の様子

航空自衛隊那覇基地 第9航空団新編

1月31日、航空自衛隊那覇基地において第9航空団が新編されました。これまで、那覇基地では、第83航空隊の第204飛行隊の一個飛行隊で対領空侵犯措置をはじめとする任務を担い、南西地域の空を守ってきました。この度、南西地域における航空自衛隊の運用体制の充実を図るため、築城基地(福岡県)から第304飛行隊を迎えて2個飛行隊体制となりました。同日、那覇基地で新編記念式典が開催され、若宮防衛副大臣から第9航空団の川波清明司令に団司令旗が授与されました。また、同副大臣から、「緊張感をもって任務に当たって欲しい」と訓示がありました。

なお、航空自衛隊の緊急発進(スクランブル)回数は近年増加傾向にあります。平成27年度における第3四半期までの回数は全国で567回であるところ、那覇基地からの発進は352回となっており、約6割を占めています。



団司令旗授与



第9航空団機によるダイヤモンド9飛行

【川波第9航空団司令のコメント】

第9航空団へ新編されることは、我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中、南西地域の防衛体制強化を目に見える形で示すものです。

今回、2個飛行隊で運用する体制が整えられたことにより南西地域における航空自衛隊の運用体制の充実を図ることができました。

第83航空隊は44年でその歴史を閉じますが、第9航空団へ脈々と受け継がれていく伝統は、任務を遂行する気概と心から沖縄を愛する気持ちではないかと感じています。

今後も、地元の方々のご理解を得つつ、常に精強な部隊を維持し、国民の信頼を得た抑止力として存在し続けるよう努力していきたいと考えております。

沖縄の子どもたちに「雪」のプレゼント

海上自衛隊第5航空群では、平成7年から毎年県内各地に「雪」をプレゼントしています。

この取り組みは、海上自衛隊第2航空群(青森県八戸市)と第5航空群(那覇市)の隊員が中心となって、地域交流事業の一環として、沖縄からは「さとうきび」を、青森県からは「雪」を相互に送っているものです。

今年は、2月16日に那覇市の肢体不自由児協会に、翌17日には南風原町の南部子ども医療センター及び那覇市のはぐくみ児童クラブに、また、19日には久松五勇士会等の支援を受け、宮古島市の狩俣小学校、あけぼの保育園の5ヶ所に青森県内に降った雪をプレゼントしました。

本年1月、観測史上初めて沖縄で雪が観測され、全国的にも話題となりましたが、実際はみぞれで、子どもたちが雪を目にすることはなかっただけに、今回の「雪」のプレゼントに大喜びし、さっそく雪遊びをして楽しんでいました。



「雪」のプレゼントをする島野第5航空群司令(左写真)と「雪遊び」を楽しむ児童(右写真)【写真提供:海上自衛隊第5航空群】

米国太平洋空軍音楽隊が県内各地で演奏

3月15日、嘉手納町総合福祉センターにおいて、光の子幼児学園の園児やその保護者など約100名を招いて「日米親善平和ジャズコンサート」が開催されました。

同コンサートは、東京にある米空軍横田基地所属の太平洋空軍音楽隊が日米友好親善のために沖縄を訪れたもので、同福祉センターのほか、イオンモールライカム沖縄や那覇市パレット市民劇場（沖縄キーストライオンズクラブ主催）など、県内各地で演奏を行いました。

コンサートでは、「アンパンマンマーチ」や「となりのトトロ」などを演奏し、園児たちは知っている曲が流れると手拍子をしたり、楽しそうにリズムに合わせて歌ったりしました。

また、曲の合間には音楽隊からそれぞれの楽器名を教えたり、子どもたちからの質問を受け応えるなどして会場を盛り上げていました。

コンサート終了後、園児たちからのお礼として鍵盤ハーモニカで「童神」と「海の声」の演奏があり、音楽を通して日米間の親睦を深めました。



コンサートの様子



園児らと交流を深める隊員

退職者の紹介

平成28年3月31日付けで、14名の職員が定年退職を迎えました。長年にわたる勤務ご苦労さまでした。今後のご活躍をお祈り申し上げます。



環境対策官
亀谷 長栄

平成28年3月末日で、定年退職することになりました。36年間の公務員生活においては、実に様々なことがあり、一言では言い表すことのできない、まさに喜怒哀楽の連続でした。私は、その大半を米軍調整業務に費やしてきました。その業務を遂行するに当たり、特に言語の違いから苦しい場面にも遭遇しましたが、その苦しい場面を乗り越えたときは充実感と達成感を感じ、この仕事をやって良かったと思えました。これまで、仕事上関わってきた全ての方々、特に職場の上司、諸先輩方、同僚、後輩の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。一つだけ残念なことは、いつも明るく活発な松野義秋氏と仲本清也氏が共に定年を迎えることができなかつたことです。でも、彼らも含めて平成27年度定年退職者を代表して心から厚くお礼を申し上げます。

環境対策官 亀谷 長栄



調達部
沼尻 邦男



調達部
具志堅 政彦



設備課
八幡 範彦



施設管理課
與那嶺 功



施設取得第1課
平山 博



用地調整室
上間 千恵子



施設取得第2課
比屋根 重信



施設取得第2課
伊志嶺 久枝



名護防衛事務所
前田 秀樹



金武出張所
富里 直伯



金武出張所
村田 りえ子



総務部
藤本 健二



総務課
神谷 義昭



ハイサイくん

「はいさい」に対する皆様のご意見・ご感想などがありましたらお聞かせください。

連絡先：沖縄県中頭郡嘉手納町字嘉手納290-9 沖縄防衛局総務部報道室

メールアドレス：houdou@okinawa.rdb.mod.go.jp